

再編計画

1. 医療機関の再編の事業の対象とする医療機関に関する事項

開設者	阿蘇市							
施設名	阿蘇医療センター							
所在地	熊本県阿蘇市黒川1266							
構想区域名	阿蘇構想区域							
構想区域内での担う役割（再編前）	阿蘇地域における公立病院として、政策医療及び急性期・回復期医療への対応を中心とした地域の中核的な病院							
近隣病院の状況と連携の現状	<p>阿蘇地域の当院を含む5病院が病院群輪番制病院として、休日・夜間の救急医療を確保し、阿蘇地域の二次救急を担い、初期救急施設を含めた医療機関相互で、各病院の専門性に応じた患者の紹介等の連携を実施している。阿蘇医療センターでは、阿蘇地域の救急搬送の6割弱を受け入れており、当院でも対応困難な事例は熊本市内の熊本大学病院や熊本赤十字病院に搬送している。</p> <p>政策医療である5疾病・6事業+1に係る連携としては、脳卒中に関するJUST-7スコアを活用した「阿蘇熊本クロスモデル」の運用や心不全対策として「心不全シールプロジェクト」等に取り組んでいる。また、当院に常勤専門医がいない精神疾患・周産期医療については、阿蘇やまなみ病院や阿蘇温泉病院と連携を図っている。</p>							
病床機能別病床数	申請時の状況	一般病床及び療養病床					その他 (一般病床・療養病床以外)	
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期		休棟等
		124		120			4	
標榜診療科		内科、循環器内科、脳神経内科、リウマチ膠原病内科、脳神経外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、リハビリテーション科、腫瘍内科、小児科、糖尿病・代謝・内分泌内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、神経精神科、歯科口腔外科						
職員数		医師	歯科医師	看護師	准看護師	看護補助者	助産師	理学療法士
		15	1	78	1	0	0	9
		作業療法士	言語聴覚士	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学技士	管理栄養士
		4	1	5	7	7	4	2
病院建物建築年次	平成26年							

開設者	小国郷公立病院組合						
施設名	小国公立病院						
所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原1743						
構想区域名	阿蘇構想区域						
病床機能別病床数	申請時の状況	総病床数	一般病床及び療養病床				その他 (一般病床・療養病床以外)
			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
		73		73			
標榜診療科	総合診療科、循環器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、もの忘れ外来（精神）科、麻酔科						
職員数	医師	歯科医師	看護師	准看護師	看護補助者	助産師	理学療法士
	7	0	45	9	12	0	4
	作業療法士	言語聴覚士	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学技士	管理栄養士
	0	0	2	2	4	0	1
病院建物建築年次	昭和60年						

※ 表は医療機関数によって適宜追加すること

2. 医療機関の再編の事業の内容

(1) 再編事業の概要

再編後の医療機関が存する構想区域名	阿蘇構想区域
再編事業を行う医療機関が当該構想区域で再編後に担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇医療センター：救急・急性期機能を中心として、回復期や在宅医療もカバーすることができる阿蘇圏域の基幹病院 ・小国公立病院：回復期機能を中心とし、救急・急性期・慢性期・在宅医療・介護もカバーすることができる地域密着型多機能病院
機能分化・連携強化の方向性 (近隣病院とどのような機能分化・連携強化を行うのか)	<p>当院は、熊本県地域医療再生計画事業のもとに、①救急医療機能の充実、②地域完結型医療の推進、③脳疾患・心疾患治療体制の充実、④健診業務の充実 を目標として、阿蘇医療圏の中核病院として開院した。その後、医師及び関係スタッフの確保と並行して診療体制を整え、この目標達成を図り、併せて政策医療や感染症医療の機能も充実させ、平成28年熊本地震や新型コロナ下でも拠点病院としての役割を果たしてきている。</p> <p>これまで当院は、開院時の脳・心疾患治療体制の整備、平成28年熊本地震後の交通インフラ障害による阿蘇地域での受診困難を回避するためのがん診療体制の整備や複数の特殊専門外来の開設など地域の医療ニーズに応えるため、診療体制の充実を図ってきている。これまでの取組に併せて、阿蘇地域の特徴的疾患である糖尿病、腎臓疾患等の診療体制の充実を図っていく。また、阿蘇地域では、医師の高齢化や後継者不足が顕在化し、地域の外来医療を支えてきた診療所の閉鎖や有床診療所の無床化が進んでいる。地域完結型医療の推進のためには、外来医療に係る医療提供体制の充実も必要である。</p>

	<p>地域医療構想の重点支援区域選定の趣旨を踏まえ①救急医療体制、②脳・心疾患医療体制、③がん医療体制、④糖尿病医療体制、⑤災害医療、⑥へき地医療、⑦小児医療、⑧感染症対策医療、⑨予防医療、⑩在宅医療、⑪医療情報管理の環境整備（医療DX推進）、⑫医療需要に則した人材育成・確保など、政策医療機能を中心に更なる充実強化に取り組む。</p> <p>今後、当院は、政策医療（5疾病・6事業+1）を中心に機能を強化し、専門医療を提供できる阿蘇圏域の基幹病院として体制の充実を図るとともに、2025年問題を前提とした高齢者医療・予防医療機能・在宅医療支援に係る機能充実を図っていく。小国公立病院とは、脳・心疾患及びがん診療を中心に連携を強化し、手術機能については当院への機能集約を図る見込みである。当院で対応できない精神疾患・周産期医療等については、阿蘇やまなみ病院や阿蘇温泉病院と連携を図り、地域内での相互補完体制の構築を図っていく。</p> <p>また、地域の病診連携をはじめ・骨粗鬆症治療における医科歯科連携・病院と調剤薬局の薬薬連携・医療介護の連携促進や開放型病床の利用促進を図り、地域医療連携の強化に取り組む。</p>
増改築の必要性	<p>上記の役割を達成するためには、①医療提供機能の整備強化（外来診療棟の拡張）、②健診機能の充実、③医療需要に則した人材育成・確保（研修環境の整備）の3点が課題となっている。①については、平成26年8月の開院時には12診療科であったが、令和6年8月時点では22診療科と10年間で10診療科増加したため、診療ブースの増設が喫緊の課題となっている。②については、健診受診者も年々増加し、現在の健診室では対応が難しくなっており、院内の違う場所での必要なスペースの確保もできないため、増築が必要となっている。③については、臨床研修医をはじめ看護師・薬剤師・技師（士）・療法士・栄養士等の養成施設の臨床実習の受入を積極的に行うとともに、職員の資格取得や院内研修・研究発表会を実施するなど教育活動を行っている。臨床実習の受入は、後年の当院への就職の動機にもなっており、人材確保に繋がっている。年々実習等の受入人数は増加しているが、研修スペースや控室等が確保できない状況となっているため、増築が必要となっている。</p> <p>直近3年間において病床利用率が5割を下回るが、新型コロナウイルス感染症病床確保の影響により病床利用率が低下している。病床管理チームを立ち上げ、病床利用率向上に取り組んでいるため、令和6年度の病床利用率は回復傾向にある。病床数を減らして既存建物内でスペースを確保する方法も検討したが、今後も専門医療提供を継続し、経営強化プランの経営健全化目標の達成を図るためには、現在の病床数の維持を必要とする。</p> <p>また、診療科数についても、地域の基幹病院として地域の医療需要に応えるためには、①高度急性期医療機関と連携した、がん、脳・心疾患、救急医療への対応、②地域の特徴的疾患（糖尿病、腎臓疾患等）への対応、③高齢者の特徴的かつ複合的疾患（消化器疾患、認知症、骨折、歯科口腔外科疾患、在宅医療、人生の最終段階における医療等）への対応、④総合診療・へき地医療・小児疾患に係る医療提供機能の維持が必要であり、診療科数の維持が必要となる。</p>
新興感染症への対応（コロナ対応で果たした役割及び増築後に果たす新興感染症への対応に関する役割）	<p>新型コロナウイルス感染症については、第二種感染症指定医療機関として、1病棟を空床化しての陽性患者の受入をはじめ、時間外救急対応、発熱外来診療、ワクチン接種、感染管理認定看護師を中心とした他の医療機関・高齢者施設等への指導・支援介入を行った。新型コロナ5類移行後も引き続き上記の取り組みを行っている。また、新型コロナウイルス感染症対応で得られた情報・知見を基に、感染対策BCPを策定している。</p>

書式変更：インデント：最初の行：3.9 mm

	<p>今後の新興感染症等の感染拡大時には、第1種協定指定医療機関として、陽性患者の受入、発熱外来診療を行うとともに、感染防止対策室を中心に他の医療機関・高齢者施設等への感染対策指導介入に取り組む。</p> <p>また、平時には、感染管理認定看護師を中心に地域住民や高齢者施設等への感染対策の啓発に取り組む。</p>
医師の現状と確保策	<p>平成26年の開院時には常勤医4名であったが、年々常勤医の確保が進み令和6年は常勤医15名、常勤歯科医1名の体制となった。今年度は、新たに糖尿病・代謝・内分泌内科、脳神経内科、腎臓内科、泌尿器科の4診療科の常勤専門医の充足を図ることができた。地域の医療需要に応えるためにも、今後は、消化器内科、放射線科の常勤専門医の充足を図る必要がある。</p> <p>医師確保については、これまでどおり熊本大学病院への派遣依頼や熊本県地域医療支援機構との連携を基本として確保に努めていく。</p>
看護師等の現状と確保策	<p>看護師その他の医療従事者については、概ね充足しているが、令和5年度末の退職者が予定より増えたため、看護師・薬剤師が若干不足している。年度途中や令和7年度の新規採用により、不足解消が図れる見込みである。</p> <p>学生実習の積極的な受入や各種養成校への個別訪問などの取組が採用に繋がる事例も増えてきている。今後も研修環境整備によるキャリア支援、福利厚生施設の充実など、魅力ある職場環境作りに取り組み、職員確保に努めていく。</p>
その他	

書式変更：インデント：最初の行： 3.7 mm

書式変更：インデント：最初の行： 3.7 mm

※ 「再編事業を行う医療機関が当該構想区域で再編後に担う役割」については、再編事業を行う医療機関以外の医療機関との役割分担についても記載すること。

(2-1) 再編後の医療機関に関する事項

開設者	阿蘇市						
施設名	阿蘇医療センター						
再編後の所在地	熊本県阿蘇市黒川1266						
病床機能別病床数	申請時の状況	一般病床及び療養病床					その他 (一般病床・療養病床以外)
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
		124		120			4
標榜診療科		内科、循環器内科、脳神経内科、リウマチ膠原病内科、脳神経外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、リハビリテーション科、腫瘍内科、小児科、糖尿病・代謝・内分泌内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、神経精神科、歯科口腔外科					
職員数	医師	歯科医師	看護師	准看護師	看護補助者	助産師	理学療法士
	17	1	86	1	0	0	9
	作業療法士	言語聴覚士	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学技士	管理栄養士
	4	2	5	7	7	4	2

開設者	小国郷公立病院組合						
施設名	小国公立病院						
再編後の所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原1743						
病床機能別病床数	申請時の状況	一般病床及び療養病床					その他 (一般病床・療養病床以外)
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
標榜診療科	総合診療科、循環器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、もの忘れ外来（精神）科、麻酔科						
職員数	医師	歯科医師	看護師	准看護師	看護補助者	助産師	理学療法士
	7	0	45	9	12	0	4
	作業療法士	言語聴覚士	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学士	管理栄養士
	0	0	2	2	4	0	1

(2-2) 再編前後の対象医療機関の病床機能別病床数の合計

対象医療機関の病床機能別病床数の合計	総病床数	一般病床及び療養病床					その他 (一般病床・療養病床以外)
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	
		再編前	197	193			
再編後	189		148	37			

※再編の事業を行う全ての医療機関の病床機能別病床数の合計を記入すること

3. 医療機関の再編の事業の実施時期

実施期間	令和6年度 ~ 令和9年度
計画年度	実施内容
6年度	・阿蘇医療センター増築等工事基本設計（1月）
7年度	・阿蘇医療センター増築等工事実施設計（7月） ・阿蘇医療センター増築等工事（1月）
8年度	・阿蘇医療センター増築等工事
9年度	・阿蘇医療センター増築等工事

※実施内容については、実施月を記載するなど実施時期が分かるように記入すること。

- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1, (言語 1) 日本語
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1, (言語 1) 日本語
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1, (言語 1) 日本語
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1, (言語 1) 日本語
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1, (言語 1) 日本語
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1, (言語 1) 日本語
- 書式変更: フォントの色 : テキスト 1

(参考)

①収支見通しに係る患者数推計

	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度
入院患者数	20,727	35,040	38,325	39,420	39,420	39,420	39,420
外来患者数	55,537	62,411	62,630	62,871	63,113	63,355	63,597
計	76,264	97,451	100,955	102,291	102,533	102,775	103,017

書式変更: フォントの色 : テキスト 1

	R12 年度	R13 年度	R14 年度	R15 年度
入院患者数	39,420	39,420	39,420	39,420
外来患者数	63,840	63,960	64,082	64,202
計	103,260	103,380	103,502	103,622

書式変更: フォントの色 : テキスト 1

②各種指標

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
経常収支比率(%)	120.8	102.8	86.2
修正医業収支比率(%)	68.1	65.3	62.9
病床利用率(%)	H30 年度	R1 年度	R2 年度
	72.8	61.7	49.0
	R3 年度	R4 年度	R5 年度
	48.9	42.4	47.2

書式変更: フォントの色 : テキスト 1

4. 再編の事業を実施するために必要な資金の額及びその調達方法

費用	調達先	資金の借入れ	自己資金	その他	合計	備考
所要額		1,960,000	0	0	1,960,000	単位: 千円
整備手法		近年の燃料価格や物価の高騰の影響により、病院建設に係るコストも大幅な上昇傾向にあるため、イニシャルコスト及びランニングコストの削減が施設整備の大きな課題となっている。また、当院の増改築事業は、救急外来付近での施設整備となるため、工程管理や工期短縮も重要な課題となる。この課題解決には、コンストラクション・マネジメント方式や設計・施工一括発注方式の活用が有効であるため、これらの方式の活用について検討を進めていく。 県補助金の活用について検討中であり、補助金を活用した場合、借入額は減少する。				

書式変更: フォントの色 : テキスト 1

※ 内容を補足する資料を参考資料として適宜添付すること

5. 再編の事業の用に供するために取得する不動産に関する事項
(土地)

(単位：㎡)

	所在地番	地 目	面 積	そ の 他	購入時期
1	なし				

※ 再編の事業の用に供するために土地を取得しない場合は、本項目は記入不要

※ 再編の事業の用に供するために土地を取得する場合は、土地の概要が分かる資料を添付すること

(建物)

(単位：㎡)

	所在家屋番号	種類・構造	床面積	そ の 他	着工時期	竣工時期
1		外来棟 鉄骨造・耐震構造	213㎡		R 8. 1	R 8. 8
2		健診・研修棟 鉄骨造・耐震構造	2,030㎡		R 8. 6	R 10. 3

※ 再編の事業の用に供するために病棟等を建築（増改築を含む）しない場合は、本項目は記入不要

※ 再編の事業の用に供するために病棟等を建築（増改築を含む）する場合は、図面、設計書等、工事の概要が分かる資料を添付すること

書式変更：フォントの色：テキスト 1